

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・考えを共有する際に ICT 機器等を使って、児童間で意見を交流する姿が見られるようになった。

(2) 課題

- ・思考・判断・表現や主体的に学習に取り組む態度に関して、特に課題が見られる。基礎的・基本的な知識理解の定着を図るとともに、一人一人が考えたり、生活場面を思い出したりしながら取り組む場面を作っていくことが重要である。
- ・記述式の問題に対して、無解答のことが多い。問われていることが分からない児童や、どう表せばよいか分からない児童が多いことが考えられる。学習の中で、どのような実験をすれば問題が明らかになるかを考える場面を設定したり、実験の意図を明確にしたりする必要がある。
- ・既習事項が未定着なうちに学習が進んでいるため、事象を科学的に捉え、思考することが難しい。既習事項を振り返り、理解の程度をたしかめた上で、学習に取り組ませる必要がある。
- ・既習事項を踏まえて考えることが難しく、自分の考えを示して取り組むことに課題がある。事象提示の工夫、考える内容や量の厳選をし、確実に考えさせることで、主体的に学習に取り組む態度を育てていく。

2 授業改善のポイント（観点別）

(1) 中学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・比較の視点をもちやすいように経験に基づいた事象提示をしていく。 ・観察の視点をあらかじめ示すことで、何を観察するのか明確にした記録ができるようにしていく。 ・学習した用語を授業中に振り返る機会を意識的に取り入れ、学習内容の理解と知識の定着を深めていく。	・めあてを明確にしてから実験を行う。中間評価で軌道修正をする。 ・考察をノートに書けるようにするために、書き方について話形を用意して掲示する。 ・観察では、比較させるときの視点をもてるように、事象提示を工夫していく。 ・結果を記録する際、同じ視点で比べるように促し、関係性を見付けられるようにする。	・主体的に解決するため、児童の体験活動から問題を見出す。

(2) 高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・観察や実験の方法を演示したり、確認したりすることで、正しい実験の仕方や実験器具の扱い方を身に付けさせる。 ・実験の前にしっかり実験の方法や器具の扱い方を確かめてから、取り組むようにさせる。また、実験器具を扱う機会を多くし、正しく操作できるようにする。 ・実験の後や単元のまとめの時間に、実験結果や知識を活用・適用して解く問題を設定して、知識の定着を図る。	・予想や考察時に根拠を明確にするよう指導し、条件制御と実験結果の関係を捉えさせる。 ・ノートに自分の考えを書く、実験結果を記録する、調べたことをまとめるなどの活動を通し、事象を多面的に捉えられるようにし、思考力・表現力を伸ばしていく。	・事象提示の吟味、工夫を常に行い、児童が関心をもって課題解決のための実験や調べ学習に取り組めるようにしていく。